

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ I 講座・准教授
氏名 Name	鈴木広和
専門分野 Academic Field	歴史学 (ハンガリー史)

主たる研究テーマ Principal Research Subject	中世ハンガリーにおける歴史叙述
<p>中世ハンガリー王国における歴史叙述の歴史において、13 世紀には歴史叙述の「世俗化」など大きな変化が見られた。13 世紀に書かれた作品のうち、今年度は 1280 年代前半にケーザイによって書かれた『ハンガリー人の事績 Gesta Hungarorum』を研究対象とした。1984 年に公刊された Szűcs の大論文が、この作品に関する現代歴史学の集大成ともいえる研究となってきたが、近年、その見直しが進められている。今年度は、Szűcs の研究をはじめとする先行研究において、この作品の特徴とされている次の 3 点について、批判的に検討することを主な課題とした。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人民主権論を主張した作品である。 2 natio Hungarorum の歴史を描いた歴史である。 3 この作品には中小貴族の政治的マニフェストの側面がある このうち、今年度は 2 について以下の論文を発表した。 <p>“Natio” in Gesta Hungarorum of Simon of Kéza. in T. Mitoma & J. Szmodis eds., <i>Legal Values in Japan and Hungary</i>. 2019, Osaka: Design Egg, pp.105-120.</p> <p>この論文の概要は以下の通りである。ケーザイが『ハンガリー人の事績』において、ハンガリーで初めて natio の語を自民族を示すためにこの作品で使用したこと、この作品は natio Hungarica (ハンガリー・ネーション) の歴史を描いたものであるとことなどが先行研究で主張されているが、これらの点を再検討すべく、この作品での natio の語の使われ方を分析した。その結果、自民族を示しているのは 20 例中 2 例のみで、ケーザイは natio を必ずしも積極的に新しい意味で使ったわけではなく、ハンガリー人の歴史を描いたこの作品が natio Hungarica の歴史であるとまでは言えないと結論づけた。</p> <p>1 と 3 については、来年度に研究成果を発表できるよう準備を進める予定であったが、遅れている。</p>	